

■今月の特選句

2016年10月

枝豆とビールの中に嫉妬して

花岡直樹

枝豆とビールが「特別な関係」にあることは周知の事実である。しかし、それを嫉妬するのはちと大人気無い。さあさあ、二人の仲に乾杯！

ままごとに妻妾同居赤のまま

小林英昭

おままごとには、世俗がいっぱい。愛人役はあなたよ。私が本妻。僕が文春の記者で、弁護士は誰にしよう。目出度く円満離婚が成立してお赤飯。

産土の神へ賄賂の木守柿

伊藤洋二

木守柿が熟して落ちたのですね。「賄賂」の俗っぽさがええなあ。産土の神へ手渡しだからカラスの奴に横取りもされぬ。

凡人に旗日のご利益文化の日

青木輝子

「旗日」は、経済優先の業界の圧力で次第に増えた。結果、敬老日や体育の日も移動して分かり難くなった。凡人にはゴロ寝できる日が増えただけ。

鶏頭を見れば数へる癖が出て

下嶋四万歩

正岡子規さんの鶏頭の句が頭のどこかにあって、習い性になるというわけですね。私も一つできましたよ。「柿食えば口でゴオンと鐘鳴らす」。

あめんぼう水が苦手水の上

稲沢進一

滑稽句は「常識を無視しての意外性」にある。油性の毛靴を履いているから潜らないという科学的立場は無視。「あめんぼうに潜る楽しさ教えたい」。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

炎天に笑ふ立て看元議員

・・・カラー印刷褪せて禿頭

原田 曄

あれは多分痩せつぼちの河鹿だろ

・・・ダイエットした河鹿のことか

山本 賜

半分の半分もまだ大南瓜

・・・ご近所さんにおすそわけせむ

工藤泰子

あれこれのリモコンさわり夜長かな

・・・どれがどれだか分からぬことに

有富洋二

道をしへ首の所が凝ってます

・・・華麗な衣装着るにも苦勞

井口夏子

性格は粘着質のとろろ汁

・・・自然薯を掘る爺の根気よ

稲葉純子

大の字にコンマー点母子昼寝

・・・子は母親のどこかに触れて

池田亮二

噴水や誤解と和解繰り返す

・・・裁判所にも噴水あるや

久我正明

台風にめちゃくちゃ好かれ日本かな
・・・もっと冷たくして欲しいのに

横山喜三郎

FAXの機嫌を損ね秋暑し
・・・具合悪けりやひつばたきなよ

梅岡菊子

蝉の木の蝉にジジイと呼ばれゐる
・・・爺にあれど立派な俳人

本門明男

腰痛の爺に秋空高すぎる
・・・仰向けに寝て見てはどうかな

奥脇弘久

眼ひとつの台風またも迷走す
・・・眼がふたつありやしたい放題

川島智子

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 蒔いた種生えぬ人の世うそ寒し 黄泉路への足腰鍛えよ体育日 | 青木輝子 青木輝子 |
| 【佳作】 | 渚への漣(さざなみ)めきし翺雲 山峡で蝸聴きて和ぐ心 鄙径は蟬あふむけの墓地なりき | 青山桂一 青山桂一 青山桂一 |
| 【佳作】 | 落雷や破り捨てたる成績表 金難に中元の券換金す 案山子翁隣にや負けぬ赤パンツ | 赤瀬川至安 赤瀬川至安 赤瀬川至安 |
| 【佳作】 | 家も山も壊れ地鳴りと台風や 時間外手当欲しいロボット涼し くずし文字のやうな雲浮く秋の空 | 秋月裕子 秋月裕子 秋月裕子 |
| 【佳作】 | 秋刀魚焼く合間にまわる回覧板 南洋の鳥にくちばし唐辛子 | 有富洋二 有富洋二 |
| 【佳作】 | 軽老と呼ばれてをりぬ敬老日 威し銃仕掛けた人をまつ威し ちちろ虫開けると点る冷蔵庫 | 飯塚ひろし 飯塚ひろし 飯塚ひろし |
| 【佳作】 | 草の実のまわりつくや下半身 颱風の眼は細めに限ります | 井口夏子 井口夏子 |
| 【佳作】 | 古池や背泳ぎ蛙は土左衛門 | 池田亮二 |
| 【佳作】 | ビニール傘は日傘にならぬ雨晴れて 陋屋のその蝸の活計なる 敗戦忌玉音響くパチンコ店 | 伊藤浩睦 伊藤浩睦 伊藤浩睦 |
| 【佳作】 | 憲法に守られ蟻の門渡り お父さん兼務爺じの帰省の夜 | 伊藤洋二 伊藤洋二 |

- | | | |
|------|--|----------------------|
| 【佳作】 | 三分で焼けぬトースト秋に入る 三年の禁酒禁煙金魚飼ふ | 稲沢進一 稲沢進一 |
| | 引力に乗じて重しマスカット | 稲葉純子 |
| 【佳作】 | 枝豆に少子化といふ文字はない | 稲葉純子 |
| | 盆踊り無沙汰の人と話し込み | 井野ひろみ |
| 【佳作】 | 饒舌に夏負けと言ふ囁れ声 法師蟬もう鳴かないと途切れがち | 井野ひろみ 井野ひろみ |
| | 浴衣着てるんるんスキップ下駄飛ばす | 上山美穂 |
| 【佳作】 | 降る雨は地球の汗や収穫祭 猫横たわる涼風の通り道 | 上山美穂 上山美穂 |
| 【佳作】 | 啄木鳥のモールス信号木の研 お地蔵の頭に止る赤とんぼ 名月や忠治見上ぐる赤城山 | 氏家頼一 氏家頼一 氏家頼一 |
| | 願ひごととなへてみたが流れ星 五感OFF超爆睡の熱帯夜 | 梅岡菊子 梅岡菊子 |
| | 焼き茄子の加減に妻の持論あり 舟くんだり河童が昼寝してゐたり | 越前春生 越前春生 |
| 【佳作】 | 腹這うて見る蛇食みし眼もて | 越前春生 |
| 【佳作】 | 日が暮れて寂しがりやの案山子かな 名月も雲隠れするラブシーン 電線にカラスのドレミ秋の暮 | 岡野 満 岡野 満 岡野 満 |
| | SMAPのMAP見辛い晩夏かな 平成の颱風銀座様変わり | 小川鮎太 小川鮎太 |
| 【佳作】 | 朝顔の己が己がのオンリーワン | 小川鮎太 |
| | 酔芙蓉二日酔ひなどせぬと散る | 奥脇弘久 |
| 【佳作】 | 高層のビルに戸惑ふ翳雲 | 奥脇弘久 |

| | | |
|------|-------------------|-------|
| | 飽食のスズメと遊ぶ案山子かな | 加川すすむ |
| 【佳作】 | 礼要らぬ役所の祝儀敬老日 | 加川すすむ |
| | 中年のマネキンが惹く木の葉髪 | 加川すすむ |
| 【佳作】 | 産土の樟の木の股蛇の衣 | 笠 政人 |
| | ラムネ飲む甘露甘露と喉仏 | 笠 政人 |
| | 汗を噴く乳房の谷の真珠玉 | 笠 政人 |
| 【佳作】 | 尺蠖の気持ち分かるヨガ体操 | 金澤 健 |
| | 医者の方かならず招んで暑気払 | 金澤 健 |
| | 緑陰で涼むのが夢街路樹の | 金澤 健 |
| 【佳作】 | 入道雲肩ぐるまして猶育つ | 川島智子 |
| | 裏側のオリンピックや原爆忌 | 川島智子 |
| 【佳作】 | デパートの素足まぶしき試着室 | 久我正明 |
| | 夕涼み最中の皮を抜け出して | 久我正明 |
| 【佳作】 | ポケモンの待ち伏せ色なき風の中 | 工藤泰子 |
| | 蜘蛛の囿に宗派の違いなかりけり | 工藤泰子 |
| | YES・NO 枕に言はず夜長かな | 小林英昭 |
| 【佳作】 | 竹婦人こゑのサービス電子音 | 小林英昭 |
| 【佳作】 | 夜の秋遙かに国際HAIKUART展 | 佐野萬里子 |
| | 「猫」読みて「仰臥漫録」栗の飯 | 佐野萬里子 |
| | 蟋蟀と青松虫に攻められて | 佐野萬里子 |
| | 修羅場なるドラマ観ながら桃啜る | 下嶋四万歩 |
| 【佳作】 | 仲のよき証としての放屁虫 | 下嶋四万歩 |
| | 萩咲くやつい覗きたき塀の穴 | 壽命秀次 |
| | 見落され胡瓜ストレス極太り | 壽命秀次 |
| 【佳作】 | 悪妻もボチもミイコも夏疲れ | 壽命秀次 |

| | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | たちまちにどろん決め込む帰省の子 遺言状書いては反古に生身魂 そつぽ向く金魚に愛想笑ひかな | 白井道義 白井道義 白井道義 |
| 【佳作】 | 防災日賞味期限を食べ尽くす 場所取りの役目は祖父母運動会 | 鈴鹿洋子 鈴鹿洋子 |
| 【佳作】 | 目が数えている朝顔 ヒーフーミー 大サジー杯で褒められてる南瓜 放棄田になっても四角は四角のまま | 鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝 |
| 【佳作】 | 夏帽子リュック背おいこいで行く 力入れ勉強してきて汗流す 部屋過ごし新茶を入れてケーキパン | 鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也 |
| 【佳作】 | 犬と猫ねこが気にする鰯雲 閑酒の御代りしてる菊日和 鬼やんま極楽蜻蛉追い掛けて | 高田敏男 高田敏男 高田敏男 |
| 【佳作】 | 混雑の隙間より見る風の盆 踊手に年齢制限風の盆 踊笠かぶれば皆んな美男美女 | 高橋きのこ 高橋きのこ 高橋きのこ |
| 【佳作】 | 朝顔の天井へ南無観世音 虫の声句心誘ふ音色なり 釜ヶ崎伝説書くなる銀漢 | 田中 勇 田中 勇 田中 勇 |
| 【佳作】 | 村芝居校長先生馬の足 耳鳴りで年中虫の声を聞く 繁華街交差点飛ぶ赤とんぼ | 津田このみ 津田このみ 津田このみ |
| 【佳作】 | 十七が数Ⅱ・B解くテントかな 二の腕の妻刺す秋の蚊を叩く 長老は家飲み参加暑気払ひ | 飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝 |

| | | |
|------|-----------------|-------|
| | 台風やしぼんで温帯低気圧 | 中井 勇 |
| 【佳作】 | 秋簾捨ててしまおか仕舞おうか | 中井 勇 |
| | 酔つばらひ暴れ台風Uターン | 中井 勇 |
| | 睨み合ふ秋の夕日と鬼瓦 | 新島里子 |
| | 実石榴の笑ひもろとも食べにけり | 新島里子 |
| 【佳作】 | 秋扇のかげ末席の大欠伸 | 新島里子 |
| 【佳作】 | 二学期の教室ポケモンゴーだらけ | 西をさむ |
| | 山梨のぶどう狩には文句なし | 西をさむ |
| | コスモ스에吹かれて百恵嫁に行く | 西をさむ |
| 【佳作】 | 昼と夜天秤にかけ秋分日 | 花岡直樹 |
| | 月見団子三兄弟も夢の跡 | 花岡直樹 |
| 【佳作】 | 颱風を遣り過ぎすべくカップ麺 | 原田 曄 |
| | 水蜜やメダルは囓るものならず | 原田 曄 |
| 【佳作】 | 人間を遊ばせている猫じゃらし | ひがし愛 |
| | 夏休み本に休みの暇はなし | ひがし愛 |
| | もてなしの馳走の一つとろろ汁 | ひがし愛 |
| 【佳作】 | 山盛りの鹽に象の掻き氷 | 久松久子 |
| | 無住寺の仁王抜け出す大西日 | 久松久子 |
| | 一日に昼寝二度する平和呆け | 久松久子 |
| 【佳作】 | 涼しげに明日も猛暑と予報官 | 日根野聖子 |
| | 掃除機で吸ひとれるかも豆台風 | 日根野聖子 |
| | 秋の朝溶けつつバター輝ける | 日根野聖子 |
| 【佳作】 | 片耳に夫の声ある秋彼岸 | 廣田弘子 |
| | 叙情詩に孤独の部屋や秋の風 | 廣田弘子 |
| | 野仏は恋知らぬげに草の花 | 廣田弘子 |

| | | |
|------|--|-------------------------|
| | 初秋や止り木の鶏羽繕ふ | 藤岡蒼樹 |
| 【佳作】 | 流灯に遠忌過ぎ棲む学徒兵 身重なる妻の飛び入り盆踊り | 藤岡蒼樹 藤岡蒼樹 |
| 【佳作】 | 冷房を効かす効かさぬ空気読む 夏休サザエさんちの部屋みたい 冗談の貼紙「土用休業」と | 藤森荘吉 藤森荘吉 藤森荘吉 |
| 【佳作】 | 夕焼や私の影が足長に 返事なき人と歩くや虫の庭 下駄音も淋しく聞こえ風の盆 | 藤原セツ子 藤原セツ子 藤原セツ子 |
| 【佳作】 | 雷雲に追はれ追はれて家路つく 残暑にて老いの五体は昼寝中 朝ぼらけさも忙しく蟬の声 | 細川岩男 細川岩男 細川岩男 |
| 【佳作】 | その欲の笹しなはせる星祭 見る阿呆いつしか踊る阿呆となる | 本門明男 本門明男 |
| 【佳作】 | 紫のしっぽの蜥蜴こちらみる 我が詩を越中おはらにのせて欲し ふるさとのヒマラヤを恋ふ青い芥子 | 松井寿子 松井寿子 松井寿子 |
| 【佳作】 | 番長も老いてメタボのかき氷 箱庭に肥溜め添えて父傘寿 老人に秋蟬うめいて尿漏らす | 松井まさし 松井まさし 松井まさし |
| | 妄想台風たどり着きたる大船渡 秋日傘乾いた風を買いに行く | 南とんぼ 南とんぼ |
| 【佳作】 | 雑念を小分けしました吾亦紅 | 南とんぼ |
| | 亡き兄の乗つていさうなひつじ雲 | 百千草 |
| 【佳作】 | 叶はないから夢といふ秋の虹 原子炉に二百十日の風走る | 百千草 百千草 |

| | | |
|------|--|-------------------------|
| | 鬼灯をひとつもらひし口遊び 魂の抜けた蜻蛉の生き生きと | 森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子 |
| 【佳作】 | あさひまで狭間を繋ぐ虫の声 | |
| 【佳作】 | 新涼の水新涼の蛇口より うすばかげろふひらがなで書いてこそ この梨や子規忌の子規に食はせたき | 八木 健 八木 健 八木 健 |
| 【佳作】 | 野糞なる野卑なる野辺の野菊かな 飛越とは飛驒に越中渡り鳥 良薬はもつてのほかと坐薬かな | 八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑 |
| | 結ばれた証は甘く実玫瑰 | 八塚一青 |
| 【佳作】 | 朝顔の実はいい夢の続きかな 青臭さ余計なもの煙草干す | 八塚一青 八塚一青 八塚一青 |
| 【佳作】 | 日本を丸呑みにする鯛雲 風死せりシミ・シワ・白髪・体脂肪 脛かじる土台白蟻かじりをり | 柳 紅生 柳 紅生 柳 紅生 |
| 【佳作】 | 九月号投句忘れかさて認痴 台風過身体の異変著明なり 激痛や樹木にひそむ蚊の逆襲 | 柳澤京子 柳澤京子 柳澤京子 |
| | 木漏れ日に時を与へり法師蟬 信号待ちしていると云ふ熱地獄 | 山下正純 山下正純 山下正純 |
| 【佳作】 | 終止形末尾省略法師蟬 | |
| 【佳作】 | 飲みかけの水を残暑の植木にも 赤のまま小皿にしごきおまごど 実南天猛暑に勝てず落ちにけり | 山本けい子 山本けい子 山本けい子 |
| 【佳作】 | 五分足らずで出来るそら豆の皺 水切りの音が大好き川蜻蛉 | 山本 賜 山本 賜 |
| | 冬の国夏の五輪や季語錯乱 | 横山喜三郎 |
| 【佳作】 | 軽老の中のひと日を敬老日 | 横山喜三郎 |
| | つれ立ちて老兵集ふ敬老日 | 吉原瑞雲 |
| 【佳作】 | 持寄ればまずは上座と新走 ガム噛まぬイチロー2ラン九月尽 | 吉原瑞雲 吉原瑞雲 吉原瑞雲 |